

投稿

1993 年 7 月号と 2003 年 7 月号

～20 年前と 10 年前の「天文教育」～

松村雅文（編集委員会）

1. はじめに

20年前や10年前は、「天文教育」誌にはどんな記事が掲載されていたのでしょうか。今回は、1993年7月号[1]と2003年7月号[2]を見てみましょう。前回と同様に、今回も、私の手許にある紙媒体の会誌と、当会のウェブページ[5]の情報を使いました。

2. 20 年前：1993 年 7 月号

図 1 は、20 年前（1993 年 7 月）の「天文教育普及研究会回報」（「天文教育」の旧称）の表紙です。この号の記事は、次のようなものでした。

- (1) 会費納入のお願い
- (2) 次なる世代で天文学が発展するために
—天文教育の果たす役割— 福江 純
- (3) 第 1 回運営委員会の開催について
- (4) 「天文教育・普及の直面する問題……」
のポスターとフォーラムの報告 遠藤勇夫
- (5) 第 4 回天文教育普及研究会中部分会報告
沢武文
- (6) 関東地区高校分科会会合の報告
掃部条二
- (7) 村おこしに役立つ天文台 基本理念論
金子功
- (8) 角速度の分解 佐藤明達
- (9) 入試問題分析 WG
- (10) 本会からの頒布図書の紹介
 - ・『「天文教具」新しい天文教具展集録』
天文教具展実行委員会 編
 - ・『教育のためのプラネタリウム
～設置についての基本的な考え方～』
プラネタリウムワーキンググループ 編

- (11) 天文教育普及研究会の役員選出等について 服部完治
- (12) 第 7 回天文教育研究会 最終ご案内
実行委員会
- (13) 会則
- (14) 入会申し込み書

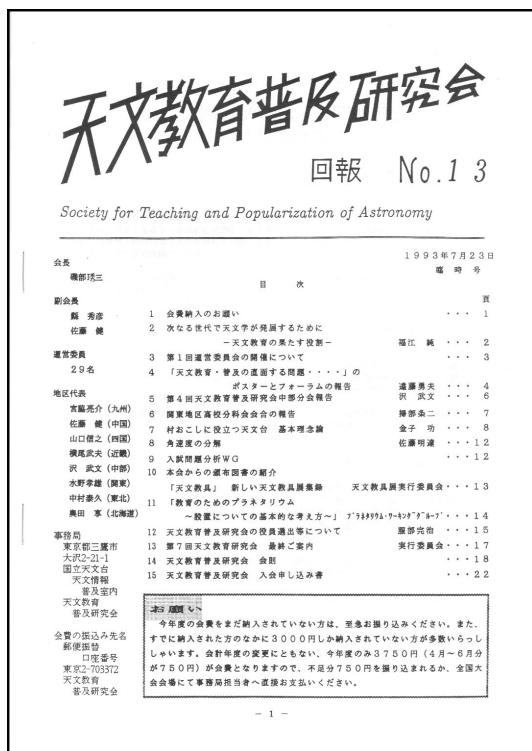


図 1 1993 年 7 月号の表紙

まず、冒頭（表紙の下）の「会費納入のお願い」(1)に、苦笑してしまいました。会の運営には、いつも同じような悩みがつきまとうものなののでしょうか。

(2)は、日本天文学会との共催の天文教育フォーラム等の、当会からの提案・要望・提言

のための資料でした。一方、(4)はフォーラムの報告でした。その内容は、天文研究者に対して、教育や普及の重要性を訴えることが中心になっています。このような働きかけがあったためか、今日では、この重要性は、研究者にかなり認識されているように思われます。

(7)は、当時、増えつつあった公共天文台について論じたものになっています。この中で、著者は、“(筆者自身が作った) 金子天文台は...(略)...「人づくり」を目指して運営している”と記しています。「人づくり」の重要性は、不朽の真理のように思われます。

3. 10 年前：2003 年 7 月号

次に、10 年前の 2003 年 7 月号 (図 2) を見てみましょう。この号の総ページは、107 ページもありました。

◎特集 1 研修会「プラネタリアムの役割と使命を考える」報告

- | | |
|-------------------|------|
| (1) 特集にあたって | 國分利幸 |
| (2) 日本におけるプラネタリアム | 若宮崇令 |
| (3) 世界におけるプラネタリアム | 伊東昌市 |
| (4) 作家のみたプラネタリアム | 寮美千子 |

◎特集 2 火星大接近

- | | |
|--------------------|------|
| (5) 火星はどのような惑星か | 仲野誠 |
| (6) 地上からの火星観測 | 岩崎恭輔 |
| (7) 火星にも雪が降る | 鳴海泰典 |
| (8) 8 月 27 日を火星の日に | 渡部義弥 |

◎実践報告

- | | |
|-------------------------|----------|
| (9) 数学教師が行った天文教育 | 谷川智康 |
| (10) 小中学生のための天文学習教材 (2) | 長島康雄、渡辺章 |

◎連載

- | | |
|-----------------------------------|------|
| (11) 「星と☆形 -The Symbol of Stars-」 | |
| 第 5 章【最終回】 | 西村昌能 |
| (12) 「天文学最前線」【10】太陽風研究から惑星状星雲の研究へ | 鷲見治一 |

- | | |
|---------------------------|------|
| (13) 「天文学への道」第 3 回 青木 勉さん | |
| | 富田晃彦 |

- | | |
|---------------------------|-----|
| (14) 「シネマ天文楽」【3】火星映画へようこそ | |
| | 福江純 |

◎報告

- | | |
|----------------------|-------------------|
| (15) 天文したい高校生が仙台に集った | |
| | ASTRO-HS 運営委員会事務局 |

- | | |
|------------------------------------|------|
| (16) 天文教育普及研究会 2003 年度役員選挙
開票結果 | |
| | 岡本貞夫 |

◎情報コーナー

- | | |
|-----------------------------------|--|
| (17) 天文教育普及研究会関係の会合やイベント／その他のイベント | |
|-----------------------------------|--|

- | | |
|------------------------------------|------|
| (18) 天文教育ヘッドライン／最近出版された天文関連書・ソフトなど | |
| | 栗野諭美 |

- | | |
|-----------------|--|
| (19) 事務局からのお知らせ | |
|-----------------|--|

- | | |
|----------------|-----|
| (20) 表紙絵・表紙の言葉 | 坂元誠 |
|----------------|-----|

- | | |
|-------------------------|--|
| (21) ちょっと気になる天文用語 51～60 | |
|-------------------------|--|

福江純

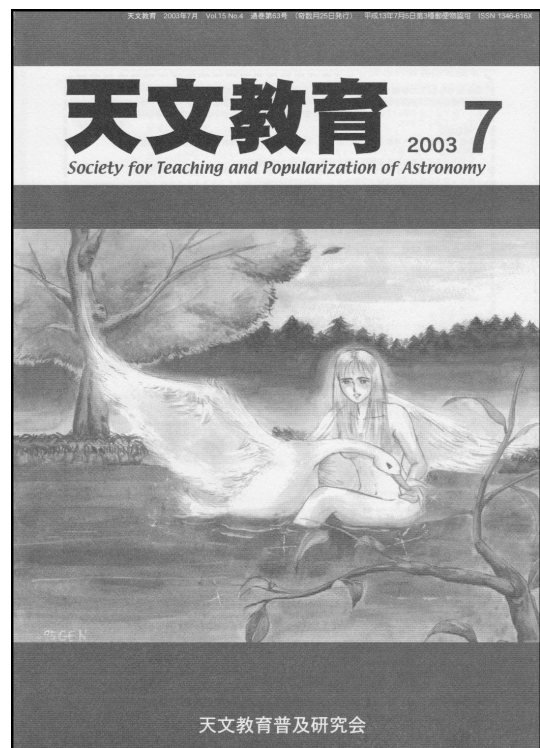


図 2 2003 年 7 月号の表紙

特集1は、2003年4月27日に関東支部において行われた研究会「プラネタリウムの使命と役割を考える」(本会プラネタリウムWG、日本プラネタリウム協会、汎星会の共同主催)の内容を紹介したものになっています。当時、2003年6月1日に池袋のサンシャインプラネタリウムが閉館したように、全国的にプラネタリウム館が閉館・縮小されていました。この中で、学校教育や生涯学習などでのプラネタリウムの役割について意見公開を行い、課題と展望、役割と使命について考察しようとするものでした(1)による)。当時と今とを比べると、社会的な状況が変わっており、学校教育の内容もゆとり脱却で変わっており、プラネタリウムのハードやソフトも大きく進歩しています。今日のプラネタリウムの“使命と役割”を再度考えてみたら、どのような内容になるのでしょうか。この議論は多くなされているのかも知れませんが、本誌の記事においても見てみたいような気がします。

今年(2013年)を“彗星の年”と言うように、2003年を特徴付けたとするならば、“火星の年”と言うことができたでしょう。この年は、火星が17年ぶりに大接近しました。そこで、特集2では、火星についての4つの記事が掲載されていました。(14)も、火星映画を中心に、火星について解説がされていました。

(9)は、高校の総合学科の「地球科学」での天文を題材として授業の報告でした。授業後のアンケートによると、大体のテーマが面白かったと好評だったけれど、計算は不評だったとのことでした。大学の教養の講義と同じような傾向のようですね。

(10)は、牛乳の紙パックを加工して、視野の広さ(夜空の広さ)が観察できるように工夫したという実践報告でした。紙パックを用いた“夜空の観察フレーム”を用いると、日周運動が観察できるそうです。更に、一定の視野に見える星の数を比較することで、光害調査に使える、とのことでした。

(11)の連載「星と☆形」は最終回になりました。この最終回の記事は、“星型”の話題から少し離れ、天の川に関するものでした。メーリングリスト上のかなりディープな情報が紹介されていました。みなさん、色々なことをご存知ですね、と改めて感心してしまいました。

(16)は、2003年度の役員選挙結果でした。当時も、立候補や推薦が無い場合、かなりの少数の得票で委員に当選してしまう、ということが読み取れます。当会の運営には、やはり、同じような悩みがつきまとうようです。

文 献

- [1] 「天文教育普及研究会回報」No.13, 1993年7月号(vol.5 No.3に相当)
- [2] 「天文教育」2003年7月号(vol.15 No.4)

松村雅文